


主な学習活動 (実際に行った活動)	指導の実際
<p>1 仙台城の地震被害について知る。</p> <p>仙台城の石垣は、今までに何度災害に遭ってきたのだろうか。どんな災害の様子だったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 本丸跡の石垣が、3か所、約60メートルに渡って崩れ落ちた。 江戸時代のおよそ260年間に、10回以上の大きな地震を経験した。 大地震が起こる度に石垣が崩れ落ちた。 	<p>○ 石垣の崩落の様子を伝えるために仙台市教育委員会文化財課のwebページ『仙台城』の資料「東日本大震災からの復旧」「石垣は語る」をテレビ画面で提示し、関心を高めた。</p> <p>○ 副読本 P.62「自然災害年表」を提示し、仙台城の地震被害（築城以来18回の地震に見舞われたことなど）について確認させた。</p> 
<p>2 仙台城の修復の様子について調べる。</p> <p>石垣を修復して分かったことはどんなことだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 現在見える石垣の内部にも古い石垣が残されていた。 整然と並べられた石の列が見つかった。 	<p>○ どのようなものが発見されたのかを中心に、webページ『仙台城』を使って、みんなで確認した。</p>
<p>3. 地震を乗り越えるための知恵について話し合う。</p> <p>どうして古い石垣を残したのだろうか。石の列は、どのような目的で作ったのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 強度を増すため。 昔の石垣を残して、広く、高くすると安定すると思う。 昔の石垣を残せば、地震があつて崩れたことを後世に伝えられると思う。 三重構造の方が頑丈だから。 今までの地震に耐えてきたから、そのまま残した。 	<p>○ 写真資料などを用いて具体的にとらえさせた。</p> <p>※ 児童には、一部を拡大したものを提示し見やすくした。Ⅲ期工事までに行われた石垣内部の様子が分かりやすい資料だが、パソコンを使用するなどすればなお分かりやすいと考える。</p> <p>○ 初めにワークシートを活用し、自分で調べたことをまとめた。その後、グループでの話し合い活動を取り入れ、考えを共有しながら、石垣背後の盛土や裏込石が築かれた理由などについて考えさせた。</p>

<p>4 これからの学習について見通しを持つ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>仙台城の石垣のように、過去に仙台地方で起こった災害の様子を今に伝えるものを調べてみよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 副読本 P. 62 「自然災害年表」から地震以外の自然災害にも目を向けさせ、大雨や洪水被害の多さに着目させた。 ○ 副読本 P. 47 「地名が伝える先人のメッセージ」から、文化遺産だけでなく、地名や伝承にも注目すると、災害を後世に伝えようとしていることが分かるということに気付かせた。 さらに、例示として、「浪分神社」を板書した。 (例) 浪分神社 若林区霞の目 霞の目駐屯地付近 慶長の津波の際に神社手前まで津波に襲われ、津波が2方向に分かれて引いていったことを伝える文化財。 ○ 歴史的な遺産は、先人の知恵や願いを知ることができる貴重なものであり、防災という視点からも大切にしなければならないものであることに気付かせた。 ○ 副読本の展開例と同様に、次時にパソコンを利用し、文化遺産や地名、伝承にも注目し、災害の様子を今に伝えるものを調べてみることにした。 <p><指導後の振り返り></p> <p>副読本や web ページを活用すると児童にも分かりやすく進めることができると感じた。活用できる web ページが、デジタル教科書のように副読本と一体化しているものがあるとなお活用しやすいと思う。調べる内容もデジタルコンテンツとしてまとめられていると活用しやすい。授業の場所として、パソコン室を利用して web ページをより有効に活用する方法もあると思う。</p>
---	---

